



# アルザフォーラム 2023

## 報告集

2023.11.11（土）～19（日）



分かりあうことから始めよう  
～ 一人ひとりの幸せのカタチ ～

主催／アルザフォーラム 2023 実行委員会・新潟市



## ☆ 主催者あいさつ



本日は、アルザフォーラム 2023 基調講演にご参加いただき、ありがとうございます。

今年は、「男性学の視点から誰もが生きやすい社会を考える」と題し、田中俊之さんにご講演をいただきます。田中さんは、現在、大妻女子大学人間関係学部の准教授で男性学を主な研究分野とされています。女性が社会に進出するようになりましたが、家事・育児・介護など女性が一人で何役もこなしているケースも多く、依然として男性の生き方は仕事中心が多い状況です。男性学の視点から、「誰もが、仕事も家庭も」を実現できる社会を作るにはどうすれば良いのか、お話しいただきます。

最後に、このアルザフォーラムが皆さまにとって、新たな気づきを得て、自分らしさを改めて考えるきっかけにいただければ、大変ありがたく思います。

アルザフォーラム 2023 実行委員会  
代表 多田 里美



本日は、多くの皆さまからご参加をいただき、開催できますことを大変うれしく思います。

アルザフォーラムは、男女共同参画の理念を広く知っていただくため、市民と行政との協働により開催しており、今年も、市民の皆さま、実行委員会の皆さまのご支援ご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

今回のアルザフォーラムは「分かりあうことから始めよう一人ひとりの幸せのカタチ」をテーマに開催されます。本日の基調講演には、大妻女子大学の准教授であり、男性学の第一人者としてメディアでもご活躍の田中俊之さんをお招きし、仕事と家庭を両立できる社会の実現についてお話いただきます。

皆さまにおかれましては、本日の講演やワークショップなどを通して、今の時代に沿った男女共同参画のあり方や、自分らしい生き方について考えるきっかけになればと思います。

本フォーラムの成功と本日ご参加いただいている皆さまのご健勝を祈念して、あいさついたします。

新潟市長 中原 八一

# アルザフォーラム 2023

延べ人数 1,011人

開催日	区分	催し物	主催者	人数	ページ	
11/12 (日)	基調講演	男性学の視点から 誰もが生きやすい社会を考える	アルザフォーラム実行委員会	152	3~6	
11/19 (日)	分科会	その生きづらさはどこからきてる？ ～見えないしほりを考える～	アルザフォーラム実行委員会	29	7	
11/26 (日)	大学連携事業	いろんな年代で考えよう！ ジェンダーについて	アルザフォーラム実行委員会	20	8	
11/17 (金)	DVD 上映会	種まく旅人 一華蓮 (ハス) のかがやきー	アルザフォーラム実行委員会	100	19	
11/18 (土)		老後の資金がありません！		166		
11/11 (土)	ワーク ショップ	コラージュで自分探しの旅にでかけませんか。	放送大学心理臨床研修会・新潟	5	9	
11/11 (土)		それは特殊詐欺だ！被害者は女性に多い、なぜ！	劇団あかつき	87	9	
11/11 (土)		僕が「自宅待機組の会」を立ち上げた理由(わけ)	カトレア会	15	10	
11/12 (日)		「人生会議」のゲームを楽しみませんか？	特定非営利活動法人 新潟キャリアコンサルタント協会	9	10	
11/12 (日)		心理学で学ぶ 男女の枠のリフレーミング	NPO法人 新潟県カウンセリング協会	9	11	
11/12 (日)		女性の歴史から戦争と平和を考える	NPO法人 女のスペース・にいがた	23	11	
11/14 (火)		認知症認定看護師に学ぶ認知症ケア	にいがた女性会議 介護・自立部会	18	12	
11/14 (火)		性の多様性と人権について学ぼう②	にいがた女性会議 男女平等教育部会	13	12	
11/16 (木)		みんなで参加する省エネ生活	新潟市消費者協会	17	13	
11/16 (木)		笑いは元気の素	NPO法人 健康生きがいづくり新潟	15	13	
11/16 (木)		カーリンコンの楽しさが あなたを健康にします！	新潟県カーリンコン協会	7	14	
11/18 (土)		女性と子どもの貧困について考える ～解決のための課題と、その対策は～	NPO法人 ウィメンズサポートセンターにいがた	9	14	
11/18 (土)		『老年期をどう生きる？』 ー自分の生き甲斐を見つけよう！ー	イキイキ健康ふれ愛クラブ元気塾	12	15	
11/18 (土)		防災カフェ in アルザ ～みんなで防災～	わいわい夢工房	18	15	
11/18 (土)		組織内ファシリテーション ～話し合うチカラを高めよう～	NPO法人 日本ファシリテーション協会新潟サロン	10	16	
11/18 (土)		私とあなたの違いを交流分析で理解しましょう	ポレポレの会	4	16	
11/19 (日)		誰もが生きやすいジェンダーバランスとは？	NPO法人 新潟 NPO 協会	10	17	
11/19 (日)		「困難な問題を抱える女性への支援」 ーどうする？県・市の民間団体と行政との協働ー	にいがた女性会議 子どもの人権・子育て支援部会	35	17	
11/4 (土)		協賛事業	パパ's 絵本プロジェクト「親子で楽しむ絵本ライブ♪」 in 新潟	ファザーリング・ジャパン にいがた	66	18
11/19 (日)			女たちのパイレーツオブ日本海 ～中年女たちの新時代の幕開け～	劇団 blue ジーンズ	162	18



## 「男性学の視点から 誰もが生きやすい社会を考える」

講師 田中 俊之さん  
(大妻女子大学人間関係学部 准教授)



### 多様な人たちが生きていく社会

今日は「男性学の視点から誰もが生きやすい社会を考える」というテーマでお話をさせていただきます。男性学という学問をほとんど聞いたことがないと思いますので、ぜひ、男性学がどのような学問なのか知っていただきたいと思います。そして、男女共同参画は男性にとっても当事者として向き合わなければいけない非常に重要な問題だと理解していただきたいと思います。

これまでとこれからの社会を考えていく時に、かつては、性別役割分業で「男は仕事、女は家庭」という状況でやってきましたが、「男も女も、仕事も家庭も」これをいかに両立して夫婦で、やっていくかが大きな問題になってくると思います。地域や家庭、あるいはもっと大きく国でどう考えていくのかということが現状だろうと思います。一見すると、とても素晴らしい「男も女も、仕事も家庭も」というキャッチフレーズですが、これだけでは、誰もが生きやすい社会を作っていけません。

誰もが生きやすい社会を作るために、3点ほどお話ししたいと思います。2020年国勢調査で、50歳の時点で一度も結婚したことがない方の割合は男性28.3%、女性17.8%となっています。50代男性であれば3人に1人、女性であっても5~6人に1人ぐらいの割合で結婚されない方がいる状況なので、これからは独身の人の人にとっても、男女共同参画とは何かということを考えていく必要があります。

2点目の問題点は、離婚が大変増え、シングルファザーやシングルマザーのようにより困っている人が増えている中、そのような人たちが含まれないキャッチフレーズになっているという事です。男も女もという両方揃っていることが前提になってしまうので、シングルのご家庭の支援をしっかりと考えていかないと良くないと思います。

3点目は男も女もと言ったときに、あたかも異性愛者しかいないようなキャッチフレーズになってしまうので、同性愛者の方たちの権利も考えていく必要があるという事です。

「男も女も、仕事も家庭も」ということは、とても大事ですが、皆が結婚する社会ではないし、セクシャルマイノリティの人たちもたくさんいる、あるいは結婚したからといって、ずっとそのカップルが続いていくわけではないことを考えて、誰もが生きやすい社会を考えていく必要があります。

### 女性のキャリア形成とセットで考えること

フルタイムの共働きというのは非常に大きな課題です。第1子出産後に女性の就労経歴がどのように変化したかということ、昭和の終わり1985年から89年の5年間で一番多かったのは、出産して仕事を辞めてしまう人、妊娠前から無職だった人と合わせて72.7%でおおよそ4人に3人の女性が結婚妊娠第1子出産で辞めています。第2子、第3子となれば、ほとんど続かないという状況がありました。平成になってもあまり変わらず、7割ぐらいの女性は、結婚妊娠第1子出産まで辞めてしまい2子、3子となればもっと辞めていく状況でした。

問題はこの頃に30代、40代だった方たちが今、社会の中でとても偉くなっているわけですが、人間は自分が若かった頃に作られた価値観を引きずって生きていくので、自分の妻も結婚から妊娠、出産で会社を辞め、同期の女性もほとんど辞めているとなると、女性は結婚・妊娠・出産で辞めるという認識を非常に強く持っているわけです。その認識と現実のギャップが今、非常に大きくなってしまっているだろうと思います。

しかし、近年の状況では、2000年代は60%後半ぐらいの女性が、結婚・妊娠、第1子出産までで辞め、2010年代前半には4割の人が仕事に復帰するようになり、さらに、2010年代後半は半分の女性が結婚妊娠出産を経ても働くようになりました。2020年代にはさらに加速化していくことでしょう。

日本の社会は、今まで女性のキャリア形成や経済的な自立を犠牲にして回ってきたということが、ありありとわかります。本来、日本社会は資本主義の社会なの

で、誰もが経済的な自立をすることが欠かせないはずですが、女性が女性だというだけでキャリアを積ませてこなかった。

日本の社会において、男女共同参画を本当にやるならば、女性の経済的な自立、そしてキャリア形成をいかに女性にやってもらうかが欠かせないことです。また、共働きの支援を、市としてどう考えていくか極めて重要なことです。共働き支援において最も重要な条件は子どもを安全な保育園・学童保育に安心して預けられるかということです。だから共働きの推進は単に女性のキャリア形成とか経済的自立だけではなく、子どもの安全をしっかりとセットで考えていく必要があるだろうと思います。

### 性別が与える影響とは

男性学は男性学の前に女性学があって成立しています。女性学とは、女性が女性だからこそ抱えてしまう悩みや葛藤を対象にした学問です。では、男性が男性だから抱える問題は、どんな問題があるのでしょうか。

日本では、1980年代後半から、特に中高年男性の働きすぎが問題だと言われています。この状況が40年近く全く変わらない背景には、男女の賃金格差の問題があり、夫がたくさん働いた方が家計が潤う構造になっています。賃金が高いということは、男性にとっては特権ですが、仕事中心の生き方しかないという意味では、とても不自由でもあります。

女性の社会的な地位やセクシャルマイノリティの方への差別が解消されていくことによって、特に男性の仕事一辺倒の生き方に亀裂が入ります。男性の自由の問題でもあるということをぜひ理解していただきたいと思います。

また、意識調査から中高年男性の特徴として、人に悩みを相談するのが、はばかれる割合が高いということがわかっています。これは男らしさの問題で、男は弱くてはいけない、問題は自分で解決しなければいけないと考える真面目な男性ほど、自分の内側で問題を抱え込んでしまう傾向があります。この意味でも、男女共同参画は男性にとっての当事者問題なのです。女性は女らしさによって縛られてきたわけですが、男性もまた男らしさによって縛られている。その男らしさの解放という問題を男女共同参画として考えることができます。

平日の昼間は、会社は男社会で地域は女社会という分業がまだまだ根深くあります。この壁を壊していかなくてははいけないし、男性は地域や家庭に居場所がないという問題があります。現役のうちから、趣味を作るとか友達を作る必要があるだろうと思います。そういった問題も男性が男性だから抱える問題の典型的なものとして考えられます。

ここで非常に大事なポイントは、男性という性別が生き方に対し影響しているという視点を持つことです。例えば、定年退職者という言葉には性別がないはずなのに、みんなおじさんの姿を思い浮かべます。なぜかといえば、日本では定年まで働ける女性はほとんどいないからです。

つまり、定年退職まで働ける前提を持てる時点で、男性だから女性にはない特権を持っているということで、男性だから経験している、男性だから持っているものの方というものがたくさんあるわけです。これに気づくということが男性にとって、男女共同参画という視点を考えるうえで最も重要で、男女共同参画が「自分ごと化」します。

また、この視点を持つことのいい点は、もう一方の性である女性というのは、女性という性別でどんな影響を被っているだろうと初めて想像できる。さらに言えば、セクシャルマイノリティの人たちは、どういう困り方をしているかということもわかるわけです。男性の方は、男性という性別が自分の生き方に与えている影響という視点を持ってほしいと思います。

### 本当の意味での社会人

社会人という言葉が非常に簡単に使われるのは、とてもおかしいと思います。ここでいう社会とは、企業社会のことで、本来、社会の中には地域や家庭、自分の趣味の領域、個人の領域などもあるのに、企業社会に参入するだけで社会人と呼んで本当にいいのか、社会という言葉が狭すぎないかということです。

この社会人という言葉は、企業社会で働く人という限定的な意味にしか過ぎないことをはっきり認識しなければいけないのです。そうしないと会社で働いているだけで、社会を知っているような自覚が生まれてしまい、仕事一辺倒の生き方に疑問が持てない。

地域と職業の領域で一番違うことは、会社は儲からないことはできない非常に単純な原理で動いていますが、地域はお互いの生活を豊かにしていくためにどうやって協力していけるかということを生活の中で考えなければいけない領域です。あるいは、家庭を考えた時にも儲かるとか儲からないという事で運営しているわけではないので、家庭を社会から独立させて、自分たちは何のために家庭を作っているのか、という視点も必要だと思います。また、個人の領域というのは何かその日常の役割から解き放たれるような時間、そういう時間を持てることが個人領域の非常に重要な事です。

そうすると社会というのは、広いわけで、この全部の領域にちゃんと関わられるような人を社会人と呼ぶなら意味が分かりますが、企業社会だけに関わる人を社会人と呼ぶのはもうやめた方がいいのではないかと思います。



## ワーク・ライフ・バランスを考える

日本社会では1日8時間、週40時間が必ず働く時間になっていますが、そのほかに残業が当たり前になっています。本来、これは労働基準法から考えるとおかしいですが、定時で帰ることが悪いことをしているような気がする。つまり、普通がゆがんでしまっています。働きすぎが慣習になっていて、我々はそのことを疑えない。8時間働いたら、帰っていいという当たり前のことさえできない状況があるわけです。

これからの社会は、独身の人や結婚している人、子育てしている人・していない人、介護している人・していない人、様々な人が一緒に働く社会で、共通してみんなの利益になる目標を立てにくいですが、1日8時間、週40時間が普通だというふうに変わっていくことが、極めて大事だと思います。いかにみんなにとって、いいシンプルな目標を立てられるかが、今後の社会では非常に重要になってくると思います。

また、生き方については、職場、地域、家庭や個人でそれぞれ居場所を作っていくことが大事だと思います。男性で、正社員として働いている方は、職場はありますが地域に誰も友達がいない状況や、家庭でもお父さんがいると居心地が悪い、そもそも趣味がないということがあるわけです。だから、複数の居場所をちゃんと持てるかどうか、男性にとっては極めて大事なことです。これは、社会人という言葉の弊害に尽きると思います。自分は社会を知っていると思っているけど、単に企業社会、もっと悪いことに、うちの会社のことしか知らないで、社会を知っていると言っていたかもしれないと考えなければいけません。

東日本大震災以降、社会学では命の社会学という領域が生まれ、ワーク・ライフ・バランスのライフを生命・生活・生涯という三つの視点から我々の暮らしや社会全体を考えてみようという構想になりました。仕事と命のバランスが崩れて、仕事していたら過労や自殺で死んでしまう人がいます。生きるために働いているわけで、その結果死んでしまうなんてことは、絶対あっては駄目なことです。僕は、ここをベースにワーク・ライフ・バランスという問題を考えたいと思います。命あつての人生ですから、誰も命削って働くようなことは一切あってはならない、これがワーク・ライフ・バランスのベースになるだろうと思います。

もう一つは仕事と生活のバランスで、偉くなるとか、お金を稼ぐことに対して、そういうことはなしでもいいから、子どもと一緒にいたいという人が、もっともいいのではないかと考えるのです。かなりの経済的なダメージなので、そうしなければならぬとは思わないし、出世したいと思っている人にとっては、そんな簡単にはできないことだと思います。

もちろん、お金をたくさん稼ぎたいとか、偉くなりた

いという人がいてもいいと思いますが、男性の中に偉くならなくてもいいし、稼げるお金が減ってもいいから、子どもとの時間を大切にしたいという人が、出てきてもいいのではないかと思います。各家庭で様々な事情があるでしょうから、そうすべきとは思わないですが、ただ男性でも収入や昇進などを度外視しても子どもといたいという気持ちがある人がいて、それが実現できるような社会になればいいと思います。

## 利他と利己

男性が育児に参加したときに、社会にとって重要で良いことは、男性がその地域を知る機会を得る事だと思います。もう一つ大きなことは、人のために何かするという利他の価値に大きく気付くことです。

これまでの男性と女性の育てられ方を考えると男性は競争、良い学校に行つて、良い会社に入つてお金たくさん稼いでとせき立てられていく。女性は協調、みんなと仲良くしようと教わります。例えば、そういう伝統はようやく最近になって崩れてきていますが、スポーツの部活のマネージャーは、女の子という構図です。男の子は競争を頑張つて、それをお世話するのが女の子という構図がずっとあつたわけです。これを利他・利己で言い換えると男の人は基本、利己的であつていい、女の人は利他的でみんなのためにやっていくという事です。

ここ10年くらい、世界中で女性に対してもっと利己的で、自分のために生きてもいいというメッセージが届けられていると思います。翻つて男性はどうかというと、これまで自分のためにやってきたわけだから、女性が利己的になる一方で、男性は利他的、つまり人のケア、お世話をするような役回りというものを考えていく必要があるだろうと思います。

東京工業大学教授の伊藤亜紗さんが編集した『「利他」とは何か』で利他の大原則は、自分の行為の結果はコントロールできない、相手のために良いと思ってやるけれど、その結果、相手がどう受け取るか、何が起こるかというのはわからない、けどやってみるということで、良い利他というのは他者の発見で、それは自分が変わることだと述べられています。



## ルールに縛られず、寛容であることが大切

誰もが生きやすい社会を考えると、日本ではそれを阻害してきたルールが2つあると思います。

その一つは結婚です。長く社会の中で、人は結婚するべきだという固定観念があります。例えば1970年代は、皆婚社会と言われていたので、90数%の人が結婚する社会でした。今見るとその方が不思議で、つまり結婚に向いてないような人もいただろうし、本当にその組み合わせで良かったのかという人もいただろうし、もっと言うと、セクシャルマイノリティの方が偽って結婚しなければならなかった場合もあるわけです。つまり、独身だとおかしいと勘ぐられるから、偽装しなければいけない状況もあったというわけです。そのぐらい日本は、結婚するべきだという規範がとても強かったわけです。

NHK放送文化研究所が行っている日本人の意識調査で、93年から、結婚すべきかどうかという質問をしています。最初は結婚するべきだという人と結婚するのは個人の自由だという人が拮抗していました。しかし、結婚する・しないは個人の自由だという人が右肩上がりで多くなり、今はもう7割の人が結婚する・しないは個人の自由だというふうに考えています。

子どもを持つべきだということも非常に強くあったルールだと思えますが、1993年に聞いたときには54%の人が持つべきだと言っていました。拮抗している時代が長く、今は6割ぐらいの人が子どもを持つ、持たないは個人の自由だと思っています。これに関しては、もう一言、言うておく必要があるのですが、今、不妊症が大変増えています。僕が、今から十数年前に、男性不妊について論文を書いたときには、20組に1組が悩んでいると言われていました。しかし、最新のデータだと8組に1組と言われていました。これはかなりの数です。

つまり、結婚すれば自動的に子どもができるというのは偏見ですが、最近ではますます偏見だということです。だから結婚して、しばらく子どもがいないカップルに、子どもを作らないのかと気軽に聞くような時代ではないということです。それは、個人のプライバシーだし、もっと問題なのは、今の社会では不妊治療をしている最中の人に、そのような質問をしてしまう危険性があるということです。不妊治療の成功率は、20%と言われ8割は子どもを授けられないのです。また、今までは、不妊治療の費用は保険の対象外で、お金もたくさんかけて子どもを持たない人に、まだ子どもを作らないのというのは、痛烈なハラスメントなわけです。こういうことは、もうやめなければいけないだろうと思います。いずれにしても、子どもを持つ・持たないも個人の自由だと考える人が多くなっています。

しかし、いろんな生き方があっていいと思うよう

になったかということ、そうではないと考えています。つまり、いろんな人が一緒に生きてもいいという社会が実現されるためには、人々が寛容であることが大事なのです。

## 「積極的寛容」には対話が必要

多様性を受け入れるためには、寛容性が必要ですが、寛容性には2種類あります。

一つは「消極的寛容」で関心がない、人が結婚しようがしまいが、子どもがいてもいなくても、自分のことではないから知らないし、関係ないからいいです、という認識です。一見、優しくさうだけど関心がないだけなので、こういう人は、自分に何か不愉快なことが起こったときにすごく怒る。一見、日本人は優しい人が多いけど、その優しさの裏には無関心があるのではないかと。関係ないからどうでもいいけど、自分が関わらなったら、許せないものは許せず、カーツとなっちゃうということです。

そこで「積極的寛容」が大事なわけです。これは、自分と異なる価値観を持つ個人や集団と出会ったときに、純粋に敬意を払えるか、自分が変わるかという事です。

これから、日本にはますます外国人労働者が増えると思います。そのときに、日本人をちゃんと尊敬して日本の文化を守れと言う人がいて、その場合、僕たちも彼ら彼女らの文化を尊敬しなくてははいけないし、僕ら自身も、彼ら彼女らを人権のある個人としてしっかり尊敬しなくてははいけない。

つまり、お前が変わり、俺を尊敬しろというのは、誰もが生きやすい社会とは、真反対の態度なわけです。自分だけが尊敬され、自分だけが相手に変わることを命令するなんてあり得ない。お互いに尊敬し合う、お互いに変わり得る、これが誰もが生きやすい社会の絶対的な条件です。

そのためには、我々がどういうことができるのか、社会学者のピーターバーガーと、哲学者のアントンザイデルフェルトは「人が長時間会話するとお互いに影響を与える。そうした感染が生じると、相手の信念や価値観をおかしいと思うことは、困難になるだろう」と言っています。

誰もが生きやすい社会になるためには、面と向かってちゃんと話し、お互い敬意を払って変わることができれば、誰にとっても暮らしやすい社会ができるのではないかと思います。



## 「その生きづらさはどこからきてる？ ～見えないしばりを考える～」

講師 虎岩 朋加さん(愛知東邦大学教育学部 准教授)

さまざまなライフステージの中、生活していく上で重苦しさやモヤモヤした気持ちなど生きづらさを感じる時があります。そのモヤモヤの背景には、社会構造、たとえば性別による差別などがあるとも考えられます。普段、気づきにくいモヤモヤの原因を社会構造から考え気づいてもらいたいという思いから実行委員が企画しました。

前半は講師より具体的な事例をもとにその事象が起こる背景を様々な角度から解説いただき、後半はグループワークを行いモヤモヤについて話し合いました。

### 【社会構造を考える】

社会構造のシステムは私たちがつくり、維持しています。そのシステムには、男性中心主義的な考え方が埋め込まれており、男性というカテゴリーに社会的な力が偏在しています。また、私たちは無意識に社会的に期待される言動のパターンである性役割規範に従って行動しています。

学校における「かくれたカリキュラム」には、大きな力がありジェンダー規範も含まれているため、子どもたちはジェンダーに期待されるふるまいや言動を実践するようになります。また、家族主義は性別分業を前提とした家族を基本としており、一見、寛容に見える制度もそこからはじかれる人がいることを想定していない場合があります。

すべての事例で特定の物語(ナラティブ)を頭に据え付けそれに従って行動していることがわかります。

### 【モヤモヤの原因はナラティブ】

特権を得ている人たちは抵抗するため、また特権的立場にない人々は自分自身を貶め、自分の可能性を低下させるため、ナラティブを変えることが難しくなります。

一人ひとりが抱えている問題の不当性や問題性を改めて明らかにして、みんなが理解することで概念を変え、ナラティブやシステムを変えることができます。すなわち一人ひとりのモヤモヤから出発したことをみんなで共有し新たな概念ができれば、ナラティブは変えられるということです。モヤモヤを感じることはナラティブ変化の大きなチャンスで、そのモヤモヤが社会的に共有されると主流のナラティブは変えられます。

### 【グループワークとまとめ】

1つの付箋に1つのモヤモヤしたことを書き出し、グループで模造紙に貼りました。その後、出し合ったモヤモヤを共通のカテゴリーでまとめてグルーピングしながら、モヤモヤについてグループ内で共有し合いました。

最後に全員で一言ずつ発表し、講師がプロジェクターに映し出し可視化して共有しながら講座のまとめをしていただきました。

### 【参加者の感想】

- ・モヤモヤを感じるものがナラティブ、意識の変化につながるチャンス！そうだー！！と思いました。また違う目をもって社会を見ていきたいと思います。ありがとうございました。プライバシーに配慮があったので、話しやすかったです。
- ・いろいろな立場の人の話が聞けて気づきが多かったです。
- ・新しい視点を得ることができた。
- ・ジェンダーについて様々な角度で見ることができた。
- ・内容も良かったが、モヤモヤをみんなで共有するグループワークは、普段、あまり接する機会が少ないような年齢の方とお話できてとてもおもしろかったです。
- ・なんとなく使っていた言葉をあらためて説明くださったのがありがたい。なんとなくこういう感じ、に〇〇主義など名前があったのが新しい発見でした。
- ・スクリーン表示、テキスト解説で終わらず、ディスカッション形式の討議からコメント発表の「同時字幕表示」の様な(タイピングの速さに驚き!)公開(講評コメントのスクリーン表示)に斬新さを感じました。







## 「いろんな年代で考えよう！ジェンダーについて」

講師 里見 佳香さん(新潟青陵大学 福祉心理子ども学部 准教授)

ゲスト 開志専門職大学アニメ・マンガ学部の学生(4人)

令和5年3月にアルザにいがたで若い世代の方などに広く男女共同参画を啓発するために、イオンモール新潟南で開催した「SDGs ジェンダー平等展」において開志専門職大学アニメ・マンガ学部の5人の学生の皆さんからジェンダーをテーマにイラストを制作していただきました。

今回の大学連携事業はイラストを制作した学生の皆さんをゲストに、新潟青陵大学の里見佳香さんを講師としてお招きし、前半はイラストの作品説明、後半は講義とグループワークを行いました。

### 【ジェンダーをテーマにしたイラストの作品説明】



当日は4人の開志専門職大学アニメ・マンガ学部の学生の皆さんから、どんな思いでイラストを制作したか、工夫した点などについてお聞きしました。

講師が学生の皆さんにインタビュー形式でお聞きしました。「女性は赤、男性は青という性別と色の固定概念を逆にすることで男女の役割に縛られなくてよいことを表した」「使い分けて塗ることが好きなので、線画はぱきっと、服や肌はつるつとした感じになるようにタッチの分け方は気を付けた」「ぱっと見てみんなに受け入れてもらえるポスターにしたいと思い、キャラクターより文字を主体に描いた」「偏見を額縁に見立てて描いた。額縁から飛び出すことによって偏見に囚われないということを表した」「イラストはiPad(アイパッド)でクリップスタジオペイントというソフトを使って制作した」などのお話があり、それぞれが作品に込めた思いや技術的に工夫した所を知ることができました。

### 【講義とグループワーク】

講師より法と社会の観点からジェンダーについてお話いただきました。はじめにグループで密かに思っている「女って」「男って」を各々出し合い、女と男を逆にして考えてみました。逆にして考えても、「男でもいる!」「女でもいる!」ということがほとんどでした。

講義では法学が考える男女の差異や憲法で規定されている法の下での平等での合理的な区別についてお話いただきました。人権は人が生まれながらにもつ権利で、規制に合理性が認められなければ差別(違憲)となることを学びました。また、法のみではくれない「生きづらさ」を生じさせる社会のあり方についてはジェンダーの問題が深く関係しているため、男女共同参画もジェンダーの問題も「あなたが生きる話」「あなたが生きやすくなるための話」というお話が心に残りました。



### 【参加者の感想】

参加者は10代から70代までと幅広く、「大学生の方と一緒に楽しく考えることができました。一人ひとり悩みがあることを改めて感じました。全員が過ごしやすい世界になってほしいです!」「婚性の選択率など自分が知らなかった国の実態を数字というわかりやすい形で知られておもしろかった」などの感想が寄せられました。

学生の皆さんの作品に込めた思いを聞くことや、講義やグループワークを通して、幅広い世代でジェンダーについて考える機会、そして世代によるジェンダーの意識についても考える機会になりました。

主催：放送大学心理臨床研修会・新潟	ワークショップ
<p align="center"><b>コラージュで自分探しの旅にでかけませんか。</b></p>	<p align="center"><b>11/11 (土)</b></p>
<p align="center"><b>講師：海津裕子さん（放送大学心理臨床研修会・新潟副代表、日本創作療法学会認定正クリエイティブ・セラピスト）</b></p>	
<p>放送大学心理臨床研修会・新潟は、新潟市男女共同参画推進センターの利用登録団体として、家族的秩序や性別役割、ジェンダー関係が大きく変化しつつある中で生じる生きづらさや心の問題を「コラージュ創作の創る行為によるプラスの効果と作品分析」を学習し活用して、課題解決やエンパワメントにつなげる、メンタルヘルスの面から男女共同参画行動計画の目標推進に寄与する活動をしています。</p> <p>毎年11月に開催されるアルザフォーラムは、日ごろの活動成果を発表する絶好の機会です。ワークショップでは、コラージュ創りを通して、その楽しさを体験していただき、更に創作することで気持ちの安定化脳の働きを活性化することに役立つこと、心理学的な見方で自己理解が深まることを伝えたいと考え企画しました。</p> <p>当日は会場に大きなテーブルを作り、講師から置きテスト&amp;コラージュのお話を聞き、参加者とスタッフが一緒におしゃべりしながらコラージュ創作を楽しみました。出来上がった作品を参観した後、心理学的な見方について基本的な解説がありました。</p> <p>参加者の感想は、時間があっという間だった。楽しく創れた。何だか気分がスッキリした等でした。</p> <p>配架のチラシは確実に減っており、ワークショップを重ねるごとに興味関心を持ってくださる方が増えていることを実感しています。私たちは、今後もアルザにいがたでの学習と活動の充実に努めてまいります。</p>	



主催：劇団あかつき	ワークショップ
<p align="center"><b>それは特殊詐欺だ！被害者は女性に多い、なぜ！</b></p>	<p align="center"><b>11/11 (土)</b></p>
<p>特殊詐欺被害額は370億円で88億円増加しました。詐欺被害に合った人は皆「ニュースで見ている自分だけは大丈夫と思っていた、まさか自分が被害に遭うとは思っていなかった」と言います。騙された人の名簿が他の詐欺グループに売られて何度も被害に遭う人もいます。特に高齢者が狙われ、女性がそのうちの7割以上です。老後の生活の為に一生懸命コツコツと貯めたお金をみんな盗られて悔しさで自分を責め生きる気力を失う人もいます。この様な被害者を増やさない為に、7つの事例を挙げ、演劇にしました。これを見て詐欺の手口を知ってもらい詐欺撃退をしてほしいと行いました。</p> <p>なぜ！特殊詐欺被害者は増えるのか！ なぜ！被害者は女性が多いのか！ 手口はどんなもので、どの様に騙してくるのか！ 無数の詐欺電話がかかってくる。一人一人が特殊詐欺でないかと気を付け、電話機を録音機能にし、怪しいと思ったらすぐに家族や知人、消費生活ホットライン電話188に相談、又は警察電話#9110に相談して、絶対に自分だけで判断しないことです。怪しいメールや請求書、キャッシュカードを預かると言うのも詐欺です。警察官、銀行員、役所職員の名前を騙った詐欺師もいます。</p> <p>参加者から詐欺というものや手口が分ってよかった、自分も騙されるか心配だが気を付けるなどの感想を頂きました。早くこのような悪質な特殊詐欺が無くなり皆様が安心して暮らせるよう望みます。劇団あかつきでは今後も地域の茶の間、老人会の集まりなどで詐欺撃退寸劇を行ってまいります。</p>	






主催：カトレア会	ワークショップ
<p align="center"><b>僕が「自宅待機組の会」を立ち上げた理由(わけ)</b></p>	<p align="center"><b>11/11 (土)</b></p>
<p><b>講師：三井田和人さん（「自宅待機組の会」主宰）</b>  <b>瀧澤ミチ子さん（NPO 法人 子どものオンブズにいがた副代表理事）</b></p>	
<p>これからの社会を担う子どもたちが、様々な問題を解決しながら自分の夢に向かい大人になることは、将来の男女共同参画社会実現のために必須の検討課題です。</p> <p>講師の三井田さんは小学生の時から親の期待に応えようと頑張りましたが、中学2年2学期に成績が下がり不登校になりました。学校の敷地に入ることでも認めてもらう登校を翌年の2月から行い、3年の9月には市の適応指導教室に通いました。親も本を読んだり親の会に参加したようです。高校進学後、部活内でのからかい等で2年の9月末に不登校になりました。精神科でうつ病と診断され、無理な登校はせずに過ごしました。しかし同年代の友人もなく寂しく感じていたところ、主治医の勧めもあり、昨年、3年生の9月に「自宅待機ぐみ」を始めました。コンセプトは「友だちの家に集まる」でカウンセラーや大学生の協力も得られ、11月から現在まで月1回開催しています。保護者も参加できますが殆どが本人のみで、9割以上が継続参加です。「自宅待機ぐみ」で講師が得たことは人との出会い、度胸、社会参加の意識、自分はあるという自信等です。今後、考えていることは法人化したい、後継者を見つけない、全国に同様の居場所を作りたい、社会にカスタマイズされたいとのこと。具体的には不登校の人の受け皿を増やすこと、支援者（親、先生等）による支援を手厚くすることです。</p> <p>講師がこれまで前向きに取り組んできた姿に圧倒されました。これからも自分の信じる方向に真っ直ぐ進まれ、夢を叶えられることを祈っております。</p>	





主催：特定非営利活動法人 新潟キャリアコンサルタント協会	ワークショップ
<p align="center"><b>「人生会議」のゲームを楽しみませんか？</b></p>	<p align="center"><b>11/12 (日)</b></p>
<p>キャリアコンサルタントの業務として、「介護と仕事の両立支援」がある。その中で、クライアントの心情の中には、「果たして今の介護の関わり方について、親の望むものなのか」という不安がある。多くはその不安と折り合いを付けながら、介護や親の看取りを行うことが多い。その現状を踏まえ、家族で自身の最期を話し合える環境、また、自分自身が望む最期を考えることのサポートは、誰もがよりよく生きるためのライフキャリアを実現するものと考え、この度「人生会議」ゲームを企画した。</p> <p>重いテーマになりがちな「人生会議」だからこそ、ゲーム性を全面に出し、楽しく思索が深められることを強調し、参加しやすいチラシ作成につとめた。また、HPやFBなどの媒体も通して周知を行った。</p> <p>当日は、協会員以外にも、3名の一般参加者にご参加いただいた。その他、当日欠席にはなったが、2～3名の一般参加者から、問い合わせも頂いた。</p> <p>「人生会議」のゲームを2グループに分けて実施した後、その方が大切にしたい価値観・最期について聞かせて頂いた。</p> <p>参加者の方からは、「普段親しい人にも話さない内容を共有出来て良かった」「身近な人にも共有したい」などの前向きな振り返りが聞かれた。また、弊協会の取組みについても、もっと一般の方に向けたイベントを期待している旨のフィードバックも頂き、地域社会に対する貢献事業を今後も続けていきたいと思いを新たにしました。</p>	





主催：NPO法人 新潟県カウンセリング協会	ワークショップ
心理学で学ぶ 男女の枠のリフレーミング	11/12 (日)
講師：小林幸枝さん(新潟県カウンセリング協会認定 臨床心理カウンセラー)	
<p>地域に根差している男女差別に関する考え方について認知行動療法を用いた考え方の転換方法を紹介し、日常生活に活かす方法の「リフレーミング」体験を行いました。</p> <p>当日は10名の参加者を迎え、3グループに分かれて学習を進めました。質問票を使い、それぞれが自分自身の考え方のクセを振り返り自己理解を深めました。また自分とは違う考え方や捉え方を聞き、他者理解の機会になりました。</p> <p>参加者の皆様は、熱心にグループワークにも参加してくださり、この時間を楽しんでいただきました。</p> <p>今回、当日欠席で連絡の無い方が複数名あり、グループ分けを急遽変更するなどの対応が必要でした。</p> <p>今回の経験を今後に生かし、これからも心理学をもとにした考え方や捉え方を広めていきたいと思います。</p> <p>貴重な経験の場をいただきありがとうございました。</p>	
	


主催：NPO法人 女のスペース・にいがた	ワークショップ
女性の歴史から戦争と平和を考える	11/12 (日)
講師：塩沢啓子さん(新潟女性史クラブ)	
<p>女のスペース・にいがたは、あらゆる暴力の根絶に向けて活動しています。ウクライナ、中東紛争と戦禍の絶えない日々が続いている中、女性の歴史から戦争と平和をテーマに長年、「新潟女性史クラブ」で活動されている塩沢啓子さんを講師にお呼びしお話を聞きました。</p> <p>戦前・戦中、戦後と当時の新聞記事や日記をもとにした資料から、「女性は銃後、男は戦闘」と語られてきたが、女性たちも銃をもち軍事訓練をし、女性も戦争をしていたという事実。戦中の新聞報道から、個人の意見は掲載されず「お国のために」を鼓舞する意見を掲載する動き。新潟県内各地に結成した国防婦人会結成の様子。敗戦直後の県内新聞には、特別女性従業員募集、慰安婦急募の広告が連日掲載されていたことなどを知り当時の社会情勢がよく分かりました。</p> <p>参加者からは、「過去の歴史に学び、私たちはどう生かすことができるのか」という意見がでました。</p> <p>塩沢さんからは、新聞を読む時もその通りに読むのではなく、女性を主語にしていろいろな角度から読み取ることが大事なのではないかとお話いただきました。</p> <p>参加者アンケートでは「戦時下で新潟の女性たちが戦争に巻き込まれていく流れを、わかりやすく解説していただいた。」「新聞記事からみる過去の歴史を知る大切さを教えてもらいました」など感想が寄せられました。今後も女性の視点で戦争と平和を考えていく必要性を感じました。</p>	
	



主催：にいがた女性会議 介護・自立部会	ワークショップ
<b>認知症認定看護師に学ぶ認知症ケア</b>	<b>11/14 (火)</b>
<b>講師：志賀木綿子さん（認知症認定看護師）</b>	
<p>認知症という言葉や認知症がどんなものであるか何となくわかっているつもりですが、深く理解していないため、当事者と家族を取り巻く社会の現状と日常のケアについて専門の講師に学ぼうとワークショップを開催しました</p> <p>講師に認知症認定看護師の志賀木綿子さんをお呼びしてお話を伺いました。認知症の相談はとて多く、認知症になったら社会とどう関わっていけば良いのかについてお話いただきました。またこれからもっと社会の理解度を進めていく重要性や認知症症状の改善にはケアの力が大切で、薬は最後の手段であることもご講義いただきました。認知症の人にとって介護者の影響力はとて大きく、認知症は言葉でのコミュニケーションが難しくなるが、感情はむしろ敏感になるとのことでした。認知症になってしまった場合、またはもうすでに認知症になっている人は、周囲や社会、ケアマネージャー、デイサービスなどを活用することが大切です。</p> <p>参加者からたくさんの質問が出ました。参加者はお話を聞いてほっと安心された様子でした。今年も又、参加者の笑顔でワークショップが終了して良かったです。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	

主催：にいがた女性会議 男女平等教育部会	ワークショップ
<b>性の多様性と人権について学ぼう②</b>	<b>11/14 (火)</b>
<b>講師：桑野かほりさん（一般社団法人 CORE'S 代表）ほか2名</b>	
<p>令和5年6月に『LGBT理解増進法』が施行されたこともあり、正式名称『性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律』の全文を基本資料として、昨年に引き続き「性の多様性と人権を学ぼう②」と題して当事者の方々にも参加していただき、学習と意見交換の場にしようとして、座談会形式で開催しました。</p> <p>チラシを見て、他市から参加された方が「私も当事者です」と、ご自身の体験を話してくださり、他の参加者からも、当事者の方への積極的な質問が多くでました。</p> <p>当事者の方々からは、言葉の定義や解釈、法律の制定、施行の意義と影響など話していただきましたが、東京などの都市部と現在の新潟県、市の現状を比較して捉えて見えてきた、当事者の方々抱える課題も知ることができました。</p> <p>部会として、今後も当事者の方々と連携しながら市への質問を行うなど、具体的な取り組みについても意見が出されました。参加者全員が発言するなかで、一人一人の感じ方や捉え方が異なることにも改めて気づき、より多くの人たちからの声を聴くことが、これからの部会の活動を発展させていくことにつながると感じました。</p> <div style="text-align: right;">  </div>	

主催：新潟市消費者協会	ワークショップ
みんなで参加する省エネ生活	11/16 (木)
講師：波多野誠さん（日本エネルギー協会所属新潟気軽に省エネクラブ）	
<p>今回の企画は電気料金の値上げが家計に負担をかけている状況の中で、いま一度みんなで省エネについて勉強したいと考えたからです。家族みんなで男女の区別なく全員参加で取り組んで欲しいとの思いです。</p> <p>講師を日本エネルギー協会所属新潟気軽に省エネクラブ波多野誠さんにお願ひしました。</p> <p>集客は消費者協会会員にチラシを配布して募りました。一般の方もチラシを見て申し込んでくれたので十分定員に達しました。</p> <p>当日は配布資料とパワポを進めていたのですが開始早々停電のトラブル発生であわてました。回復するまで講師の素敵な声で資料を見ながら進めてくれました。とても分かり易い説明でした。停電回復後は無事にほぼ予定通りに出来ました。電気の省エネについて学びながら大切さも痛感しました。質疑応答は活発に沢山の質問がありました。家族にも聞かせたかったとの声はとても嬉しく、充実した内容だったと実感しました。これからの生活の中で役立つものと思います。参加者に若い世代がいなかったので幅広い年代にも広げていきたいです。慣れない事ばかりでしたが、無事に終わってほっとしています。ありがとうございました。</p>	
	

主催：NPO 法人 健康生きがづくり新潟	ワークショップ
笑いは元気の素	11/16 (木)
講師：NPO 法人 健康生きがづくり新潟 会員	
<p>中高年齢者の女性男性を問わず、健康づくり生きがづくりを広く市民の皆さんに知っていただくために勉強会や公開セミナー等を行っています。健康生きがづくりアドバイザーの資格取得を主な団体活動として新潟市で行ってきて、25年になります。</p> <p>少子高齢化の時代を迎え、会員も70歳代から90歳代での構成となり、ややパワー不足が感じられますが、上部団体の一般財団法人健康・生きがい開発財団ではこの時代を迎えて、100歳大学（現役を終え、後半人生を40年ととらえ、残りの40年を有意義な自分らしい生き方を学ぶ場の提供）の義務教育化を提案し、活動を進めています。又健康寿命の延伸をテーマに、東京大学高齢社会研究機構の飯島勝也機構長とタイアップして「フレイルチェック活動」を広くPRしています。</p> <p>新潟市でも令和元年度から「フレイルチェック活動」が始まり、令和5年度には重点施策と位置づけて全区8区で実施。全国でも約100市区町村で実施され、更に拡大中です。</p> <p>それらの状況を踏まえて、この度のアルザフォーラムワークショップでは、笑いヨガを広く知っていただき、笑いの効用で健康づくり・生きがづくりに役立ててもらいたく、開催しました。当日は午前と午後の二回、参加料は無料で開催し沢山の参加を目指しました。</p> <p>アンケートでも評判は良く、実施出来て大変良かったと感じています。開催の場を提供いただきまして有難う御座いました。</p>	
	



主催：新潟県カーリンコン協会	ワークショップ
<p align="center"><b>カーリンコンの楽しさが あなたを健康にします！</b></p>	<p align="center"><b>11/16 (木)</b></p>
講師：新潟県カーリンコン協会 会員	
<p>新潟県カーリンコン協会がアルザフォーラムに参加するのは13回目になりました。カーリンコンのゲームは、赤・緑チームそれぞれが6枚のディスクを交互に投げ合い、どちらがポイント(マト)に近づいているかを競う簡単なゲームです。</p> <p>初めての人でもすぐに覚えられて、幼児から高齢者や障がいのある方まで幅広い交流が可能です。知らないうちに身体を動かして、フレイル(心身の虚弱)予防や仲間づくりにも最適なゲームです。生涯にわたる健康づくりの支援として、この楽しさを体験してもらうためにも企画しました。</p> <p>講座開始時間になっても、参加者がいない状況が続いたので、スタッフが対戦しながら技術を磨く場になりました。</p> <p>来ていただいた方々には、ゲームのやり方を説明し、ディスクの投げ方を練習して、その後試合形式で対戦しました。参加者はすぐにコツをつかみ、一投一投のディスクの行方に歓声を上げていました。自分の投げたディスクがポイントの近くに行った時や相手のディスクを弾き飛ばした時には、チームのメンバーから拍手されて、笑顔で喜んでいました。</p> <p>「初めて体験して、難しかったけど楽しかった」「運動不足には良いと思った」等の感想がありました。</p> <p>“カーリンコンの楽しさがあなたを健康にします！”のカーリンコン協会のキャッチフレーズのもと、心と身体がともに健康になるように、これからもカーリンコンを通じて、楽しさと笑顔を広めていきます。</p>	



主催：NPO 法人 ウィメンズサポートセンターにいがた	ワークショップ
<p align="center"><b>女性と子どもの貧困について考える ～解決のための課題と、その対策は～</b></p>	<p align="center"><b>11/18 (土)</b></p>
<p>講師：大澤理尋さん(弁護士(新潟県弁護士会所属)、社会福祉士、新潟県立大学非常勤講師、敬和学園大学非常勤講師) 西澤真知さん(NPO法人 ウィメンズサポートセンターにいがた代表、新潟平和研究センター講師、旧ユゴ平和人権にいがたネットワーク代表)</p>	
<p>私達「ウィメンズサポートセンターにいがた」は、DVや虐待等に悩む女性や子ども、高齢者等のための相談・支援活動を専門的に行っています。</p> <p>例えば「新型コロナ」の後遺症は身体的なものだけではなくありません。女性や子どもの貧困、自死が増え、DVや虐待の問題は益々深刻化しています。また、高齢者や障害のある方々等からの相談も増加しています。</p> <p>そうした状況を踏まえ、弁護士の大澤理尋さんから「女性と子どもの貧困」についてお話していただき、後半は「非暴力トレーニング」の手法を用いて話し合いました。養育費の支給基準が低いのが分かりDVを受けても経済的な理由で離婚に踏み切れない、給食費や部活、塾の費用など子育ての経済的負担が重過ぎる。外国籍だと生活保護などの福祉も受けにくい、生活困窮世帯の娘のパパ活が増えている等々、たくさんの解決すべき問題点が鮮明になりました。</p> <p>また、ご参加の皆様から、「ウィメンズサポートにいがた」からもこれらの問題に対して、自治体や国等に働きかけて行って欲しい等の要望もありました。</p> <p>私達は、これからも、女性や子どもの人権問題等に取り組み、DVや虐待のない、社会的弱者が安心・安全に暮らせる社会をめざし共に活動して行きたいと思えます。</p>	




主催：イキイキ健康ふれ愛クラブ元気塾	ワークショップ
『老年期をどう生きる？』—自分の生き甲斐を見つけよう！—	11/18 (土)
講師：高橋征一さん（歌指導）	
<p>始めの30分は会員発表で、山本会員による「仏教から見た因果関係」と題して、諸行無常、善因善果・悪因悪果の話があった。次に、今年で3年目になる全員参加型の発表会で、会員各自が今年の春から話し合いを重ねて来た『老年期をどう生きる？』—自分の生き甲斐を見つけよう！—のテーマについて発表し合った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 90歳の庭師への挑戦。そのための筋トレ・ストレッチの習慣化。</li> <li>* 「笑顔のある楽しい人生」をモットーに。別れの時「楽しい人生だったよ。ありがとう！」と。</li> <li>* 真・善・美をキーワードに。自分を愛し、人を愛し、植物を愛し、いい夢を持ってワクワクと。</li> <li>* 自分で出来たことに感謝。小さな事でも喜べる自分。</li> <li>* 現在72歳。エレクトーンを習い始めた。たとえそうでもなく「今日は人生で1番良い日」と言える様に。</li> <li>* 今ある自由な時間を大切に。無理しない、無駄をしない、でも彩りある日常を。</li> <li>* 人生は自分の心の持ち方ひとつである、としみじみ思い感謝する毎日を。</li> <li>* 出会った人に感謝して心豊かに静かな気持ちで日々を。</li> <li>* 今日皆様から生き方を聞き感謝。小さな事にも感謝。</li> <li>* 目標を持つ事、何事にも興味を持つ事、無理しない事を継続して行く。</li> <li>* 30アールに植えた「栗」の大果の生産。積ん読の一万冊の本を可能な限り読む。</li> <li>* 現在80歳。この1年衰えを感じるが、今できる事を考え、子供から「父」と呼ばれる人でありたい。</li> </ul>	




主催：わいわい夢工房	ワークショップ
防災カフェ in アルザ ～みんなで防災～	11/18 (土)
講師：佐竹直子さん（子育て防災支援士）、松崎友紀さん（即興舞踏家）	
<p>いつ起こるか分からない災害に備え、1人1人が自分の命を守り生き延びるには、まずはふだんから心身ともに健康を保ち元気であることが大切です。</p> <p>災害時は性別役割分担や年齢にとらわれず、誰もが自分にできることできないことを出し合い、その場に居合わせた人と協力し被害を最小限に留め公助を待つことが不可欠と、今回のワークショップを企画しました。</p> <p>前半は講師の佐竹さんの指導のもと、参加者が5人ずつのグループに分かれ、自己紹介から「クロスワード」を行い意見を交わしました。何問かのクエスチョンに短時間で自分の考えをまわりに話し、人の意見もよく聞きまた考えるという体験から、いざという時は瞬時に判断し行動することが何よりも命を守るポイントと知り、ふだんの生活にも取り入れたいと思いました。</p> <p>後半は、松崎さんにバトンタッチをし、自宅や狭い空間でもできるセルフマッサージや、人と組んだり手を繋いで輪になったりして、楽しい雰囲気の中でストレッチを行いました。からだをやわらかくすることは怪我も防ぎ、心もしなやかにやわらかくなることを体験しました。長く歩いても疲れない歩き方や、重いバッグをどうやったら体に負担なく担げるかも、実際にやってみると全員目からウロコと驚いていました。</p> <p>今回は写真やイラストでわかりやすいチラシを作り配布し、主に手渡しや口コミでお誘いしました。参加者10人中ほとんどが常連で、初めての方に声をかけながら和気あいあいと学び合う様子に、ほそぼそとでも長く続けてきてよかったと思いました。</p>	





主催：NPO 法人 日本ファシリテーション協会新潟サロン	ワークショップ
組織内ファシリテーション～話し合うチカラを高めよう～	11/18 (土)
講師：竹本記子さん（キャリアヴィーボ代表）	
<p>組織内の多様な声を活かす心理的安全性の高い組織づくりをするために境界線を超え、相互理解を促すにはどうすればいいか参加者と共に考えたいと企画した。</p> <p>講師は、企業や行政・教育機関にて、ファシリテーションを活用し、各種モチベーションアップやダイバーシティ&amp;インクルージョンなどのヒューマンスキル研修・ファシリテーション研修、対話の場づくり（ワークショップ企画・運営）や学生や社会人に対するキャリア開発を行っている竹本記子さんをお招きした。</p> <p>冒頭で、竹本さんからダイバーシティ&amp;インクルージョンとは、多様な人がただそこにいるという組織から、受け入れて活かす組織にするという大切な考え方や心理的安全性の高い職場づくりに必要な3つの要素などについて解説いただいた。次に、専用のカードを使用したクロスロードダイバーシティゲームに取り組んだ。途中、多様性を活かす6つの力やアンコンシャス・バイアスについて解説いただいた。参加者同士による対話の時間が多く、適切な時間配分と飽きさせないテンポは豊富な経験によるものであった。</p> <p>反省点は、受付ツールに Google の自動申込フォームを活用したことで、自動受付メールが迷惑メールか受信拒否になっていたのか、一名の申込者に届いておらず、こちらは受付していたが申込者は返信がなかったため受付されていないと思い、欠席となったことである。当会は専従職員のいない全員ボランティアで関わる団体であるため、受付業務であっても自動化を積極的に活用している。今後もこの方策は推進していくが、どのようにして取りこぼされる人を出さないか考えていきたい。</p>	
	

主催：ポレポレの会	ワークショップ
私とあなたの違いを交流分析で理解しましょう	11/18 (土)
講師：ポレポレの会 会員	
<p>家庭や職場での心地よいコミュニケーションのためには自己理解と他者理解が大切です。自己理解のツールとして交流分析のエゴグラムにより気づきを深めていきたいと企画しました。</p> <p>男女共同参画という視点から考えると女性であるから、男性であるからではなく、個人としての考え方の癖についての理解を目的としました。考え方の癖が分かればそこには社会の仕組みや文化的なバイアスも含まれている事が実感できると考えました。</p> <p>講座では親、成人、子どもの自我状態という交流分析の聞きなれない言葉を日常で行っている自分に落としこめるよう説明していく事を心掛けました。勉強しなければならないと考える「親」とあそびたいという「子ども」、判断する「成人」と人の心には3つが備わっており、交流のなかで「互いの心の動きを理解することが、お互いを理解するための1歩」と伝える事を目的としました。</p> <p>企画の段階で自分を認める事を含めていくという方向性が追加され、交流分析のストローク理論を追加しあなた自身が大切な存在であるという事を認め受け取るというワークを追加しました。普段は欲しい言葉を他の人に求め、受け取る事は行っていないと思います。求めることと受け取る事の良さを体感していただけたと思っています。</p> <p>当日は参加の方が少なかったこともあり、講師を交え隔たりのないアットホームな時間が過ごせました。</p>	
	

主催：NPO 法人 新潟 NPO 協会	ワークショップ
<b>誰もが生きやすいジェンダーバランスとは？</b>	<b>11/19 (日)</b>

新潟 NPO 協会は、長年にわたり生きづらさ支援に取り組んでいます。その中で、ジェンダーバランスの話からDVや子どもの不登校の要素として、男女の間には、表面に表れていないもっと深いところにジェンダーの問題が大きく隠されていて、見えない社会課題としてあるのではないかと考えました。そこでさまざまな意見を集め、調査研究を各方面と連携をとりながらすすめる新事業を立ち上げました。新潟のジェンダーバランスとは、どうしたらパートナーシップをうまく組めるのか、社会全体を見ながらパートナーシップをみんなで考え、どうしたら生きづらさを抱えず幸せに生きていけるのかを身近なところから新潟全体にひろげていきたいと考えております。今回はその事業のキックオフイベントとして、まず身近な方たちの意見を聞き、これからの事業展開に活かしたいとワークショップを開催いたしました。

男女あわせて色々な年代の方に参加をしていただき、自己紹介で参加者の今の気持ちを共有し合い、和やかにスタートしました。その後いくつかのグループに分かれ、ジェンダーと聞いて感じる事や問題に感じていることなどを積極的に話し合い、最後に自分らしく生きられるための願いを書き出しグループごとに発表しました。

参加者からは「普段話せない、機会がないことをふみこんで安全に安心して話せるイベントだった」「こういった対話の機会はとても大切だと思います」「色々な方の考えを聞くことができて楽しかったです」という感想が寄せられました。



主催：にいがた女性会議 子どもの人権・子育て支援部会	ワークショップ
<b>「困難な問題を抱える女性への支援」 —どうする？県・市の民間団体と行政との協働—</b>	<b>11/19 (日)</b>

講師：打越さく良さん（弁護士） パネラー：太田美津子さん（CAP・にいがた事務局長）、佐藤志津さん（女のスペース・にいがた事務局長）、村山郁枝さん（新潟市母子福祉連合会事務局長）

11月19日(日)、アルザにいがた307・308研修室で上記のテーマでシンポジウムを行い、スタッフを含め約40人が参加した。この女性支援新法は令和6年4月から施行される。現在新潟県は、「基本計画」策定に向け策定委員会を開催している。

当日は、弁護士の打越さく良さんを講師に法律の概要、女性相談支援センター・女性相談員、支援に関わる関係機関等の基本方針について問題提起され、県が民間団体と協働して支援を行うことや民間団体のネットワーク等について提起した。その後、当事者中心の活動をしている3つの民間団体が活動報告や、女性支援新法に期待すること等について話された。

この新法は、女性たちが直面している困難は、自己責任でなく男女格差等社会構造そのものが生み出すものだという認識から、支援は公的責任で行われなくてはならないと講演や民間支援団体の発言から感じた。その後、パネラー間の意見交換や会場との意見交換が活発に行われた。「困難に直面する全ての女性」が対象となるが、国や行政の本気度が問われるとともに、身近な自治体である市区町村の役割が大きい。当事者や支援機関・団体の声を聴き地域の実態を把握することが、一步を踏み出すことだとの意見が多かった。新潟市は、にいがた女性会議等の働きかけで新潟市の基本計画を策定することになった。

人集めに苦労したが、会場との意見交換やアンケート内容によると、「とても良い企画だった」「女性たちがいろいろな困難を抱えていることを学習した」等の感想が寄せられた。まだまだ認知度が低い女性支援新法の内容について知るとともに、今後の市民の活動を自覚する良い機会となった。





主催：ファザーリング・ジャパン にいがた

パパ's 絵本プロジェクト「親子で楽しむ絵本ライブ♪」in 新潟

11/4  
(土)

講師：安藤哲也さん（NPO 法人ファザーリング・ジャパン代表理事）  
西村直人さん（パパ's 絵本プロジェクトメンバー）

○ 企画意図

男性であるパパ達が活躍する場を提供し、ギターやウクレレを弾きながら絵本を読み聞かせることで、子どもに異なる性別の役割モデルを示し、男性も積極的に子育てや家族の時間に関わることの重要性を伝えます。これにより、父親と子どもの絆を深めるだけでなく、母親が家庭と仕事を両立する支援にもつながります。多様な家族形態や性別役割の平等な理解を促進し、社会全体の持続的な発展に貢献します。

○ 企画や集客で工夫した点

アルザにいがたのパパ向け講座に参加したパパにダイレクトでお声がけし反応が多くありました。

○ 当日の内容・参加者の声

ギターやウクレレ他など楽器を使いながらの賑やかな絵本読みから、座ってじっくりの読み聞かせ、途中はメンバーのママも参加して違った雰囲気での癒しの読み聞かせ、と思ったらお面を被って踊りながらの読み聞かせ、など色々な雰囲気があり、沢山の親子の笑顔が見られました。最後20分程になってしまいましたが、NPO法人ファザーリング・ジャパン代表の安藤パパの子育て講座も開催しました。

【参加者の声一部抜粋】

『絵本は読むものだと思っていましたが、本を使ってどうやって子どもと楽しめるか、沢山のヒントをいただきました』『私より夫のほうが読み聞かせはしてくれているので、色々な絵本を知れて良かったです』

○ 成果と反省

チラシ配布をしたが、ターゲット層が集まる場所に計画的に配布できればよかったが動ききれなかった。



主催：劇団 blue ジーンズ

女たちのパイレーツオブ日本海 ～中年女たちの新時代の幕開け～

11/19  
(日)

2007年から活動を開始した女性だけの劇団「劇団blueジーンズ」は身近にある問題をテーマに公演を続けて今年で17年目を迎えました。

今回は、2020年11月16日に東京都渋谷区幡ヶ谷原バス停で、ホームレスの女性が殺害され加害者の自殺により公訴棄却となった事件を取り上げ、この暴力容認社会を考えたいと思いました。

夢と希望を持って生きようとしていた女性が、なぜ殺されなければならなかったのか。なぜ、多くの女性が暴力で命を奪われてしまうのか、この社会の現実にもフォーカスしました。年齢、性別、国籍による差別。パワハラ、セクハラ、DV、性暴力など、この日本社会のあり様、暴力容認社会に、北海道の女性支援団体「女のスペース・おん」の近藤恵子さんの言った言葉「暴力に立ち向かう必要はない。つながること、逃げ切ること、生き抜くことが暴力支配に対する積極的な抵抗となる。」と。闘うことより、つながり合って生き抜いていくことこそ、暴力防止への積極的な働きかけになると言う言葉に心を動かされました。当日は、たくさんの方々から足を運んでいただきました。心より御礼申し上げます。

アンケートより抜粋

- ・社会的なテーマを取り上げていてとても良かった。(70代)
- ・熟年と若い人がうまく融合して良かった(60代)
- ・いろんなことを考えさせられました。(50代)
- ・つながることの大切さ、よくわかりました。感動しました。ありがとうございました。(60代)



# ☆ その他

## DVD 上映会 (会場：万代市民会館 6 階多目的ホール)

11 月 17 日 (金) 14:00~16:00

『種まく旅人—華蓮 (ハス) のかがやき—』

11 月 18 日 (土) 10:00~12:10

『老後の資金がありません!』

## 新潟市行政相談委員協議会パネル展示

国の行政等に関する相談の流れ・仕組みなどをわかりやすいパネルで展示をし、ポケットティッシュの配布を行いました。

また、11月15日(水)には、女性の人権に関する無料相談会も行いました。



## パネル展示「なるほどジェンダー」

(公財) 日本女性学習財団作成の男女共同参画にまつわるさまざまな問題、日常生活の中のちょっとしたエピソードをユーモアあふれるイラストで表現したパネルを展示しました。



## 新潟人権擁護委員協議会パネル展示

アルザフォーラム期間と同時期に実施されている「女性の人権ホットライン強化週間」の広報活動かねて、人権擁護委員の活動をお知らせする展示を行いました。



## 保育室

アルザにいがた保育室で、子どもたちの保育を担当しました。私たち保育グループ秋桜・新潟市登録保育者は、いつも「保育室は子ども達にとっても学びの場である」と心掛け保育をしています。

フォーラムにおいても、いつもとかわりなく保育にあたらせていただきました。

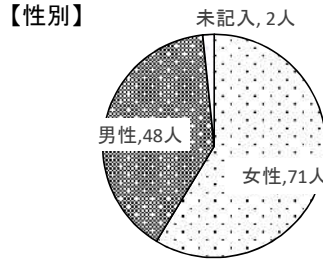
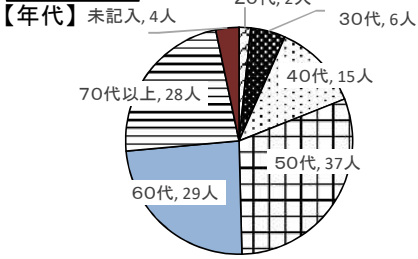
## アルザフォーラム 2023 参加者数のまとめ

催し物	参加者	スタッフ	保育室	合計
基調講演	130	19	3	152
分科会	16	7	6	29
大学連携事業	14	6	-	20
DVD 上映会 (2 作品)	249	8	9	266
ワークショップ (18 企画)	211	102	3	316
協賛事業 (2 企画)	198	30	-	228
計	818	172	21	1,011

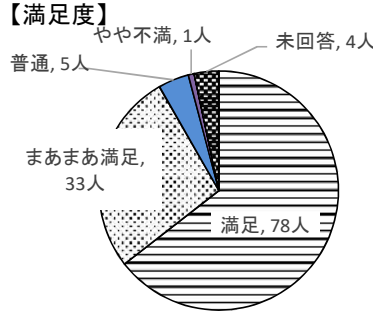
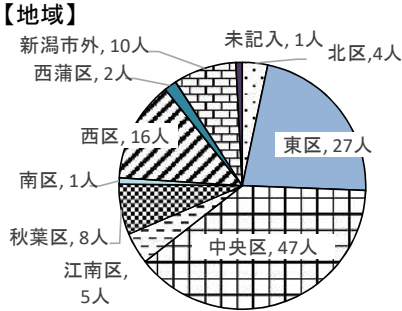
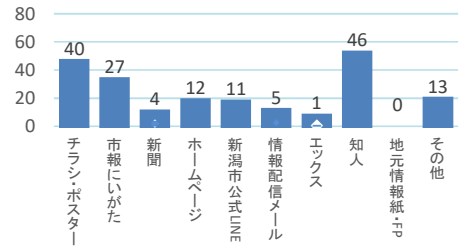


# アンケート結果

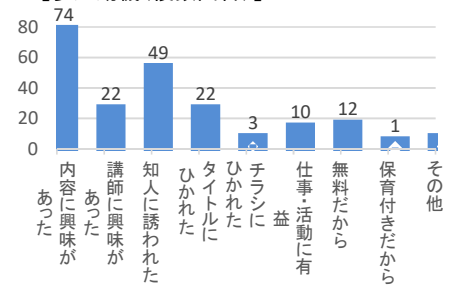
**基調講演** (参加者130人、アンケート回答者121人)



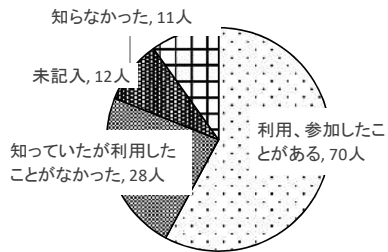
**【何で知ったか(複数回答)】**



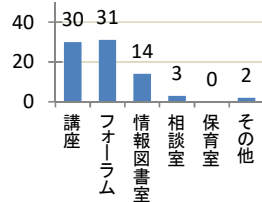
**【参加動機(複数回答)】**



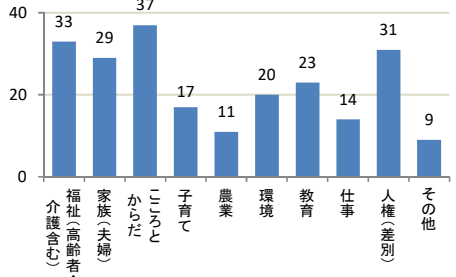
**【「アルザにいがた」を知っていたか？ 利用したことはあったか？】**



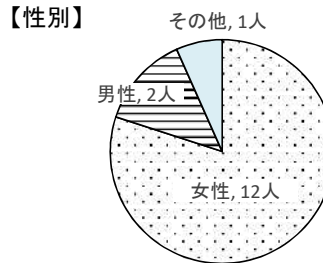
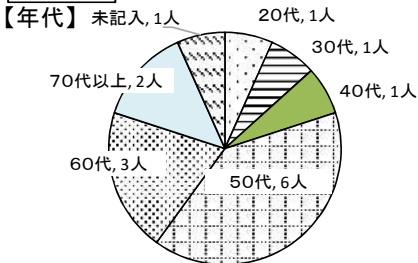
**「利用あり」の内訳(複数回答)**



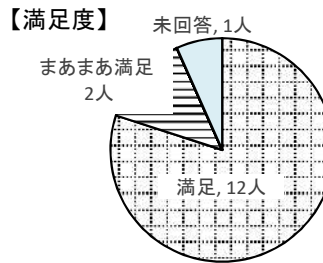
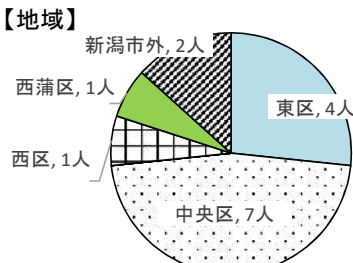
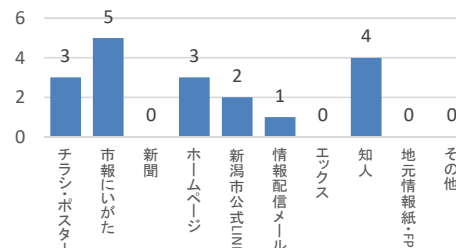
**【次回取り上げてほしいジャンル(複数回答)】**



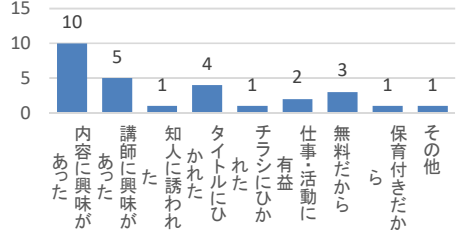
**分科会** (参加者16人、アンケート回答者15人)



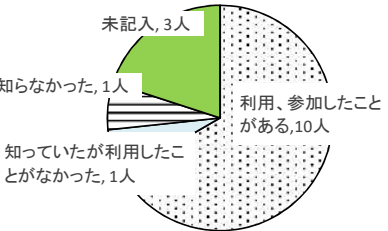
**【何で知ったか(複数回答)】**



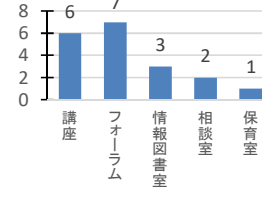
**【参加動機(複数回答)】**



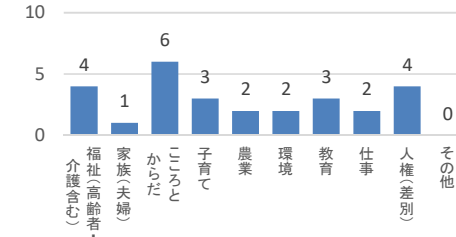
**【「アルザにいがた」を知っていたか？ 利用したことはあったか？】**



**「利用あり」の内訳(複数回答)**

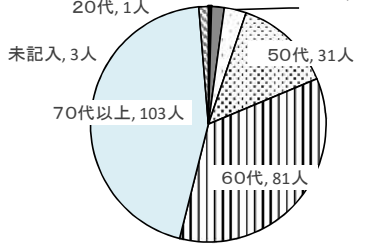


**【次回取り上げてほしいジャンル(複数回答)】**



**DVD上映会(2作品合計)** (参加者249人、アンケート回答者230人)

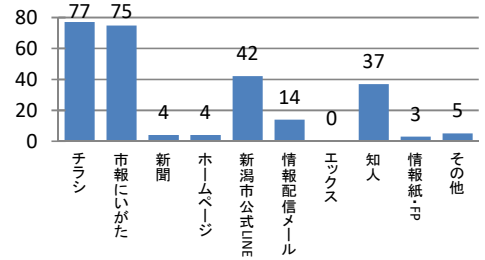
**【年代】**



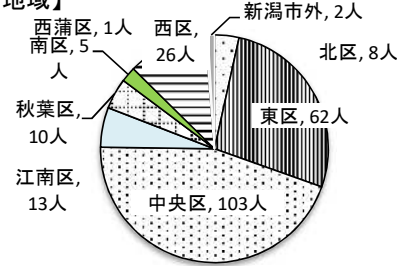
**【性別】**



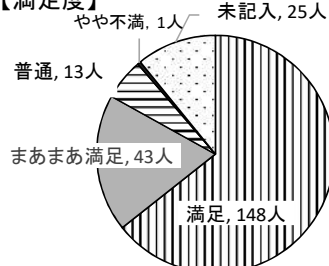
**【何で知ったか(複数回答)】**



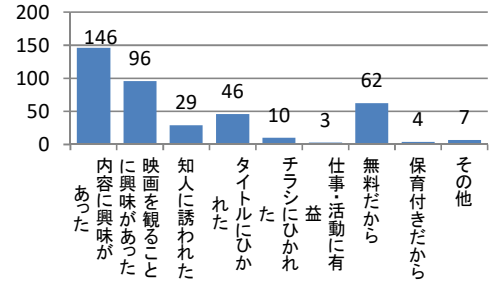
**【地域】**



**【満足度】**

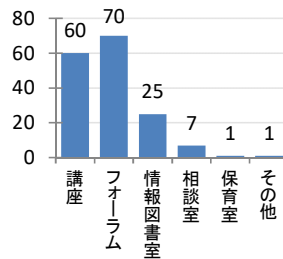
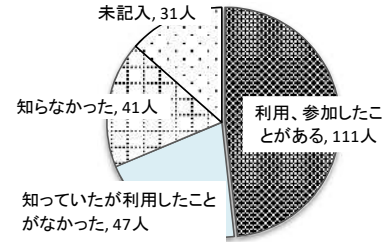


**【参加動機(複数回答)】**

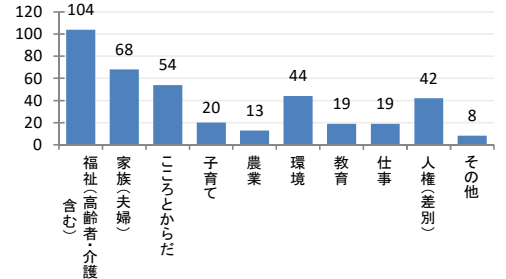


**【「アルザにいがた」を知っていたか？ 利用したことはあったか？】**

**「利用あり」の内訳(複数回答)**

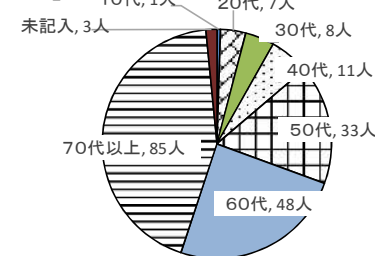


**【次回取り上げてほしいジャンル(複数回答)】**

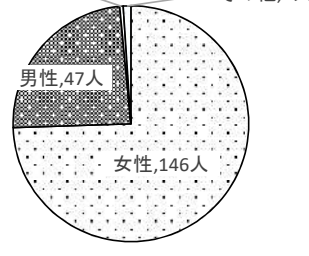


**ワークショップ** (参加者211人、アンケート回答者196人)

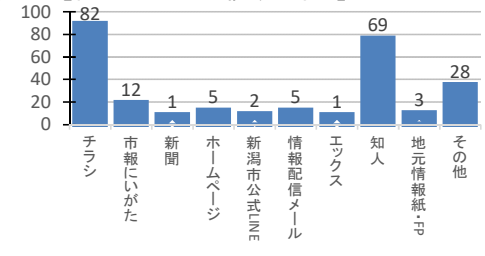
**【年代】**



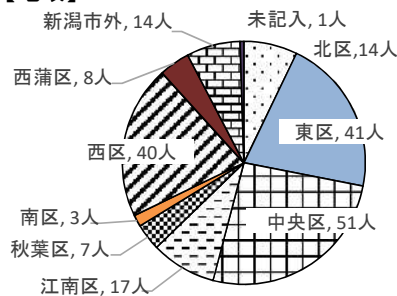
**【性別】**



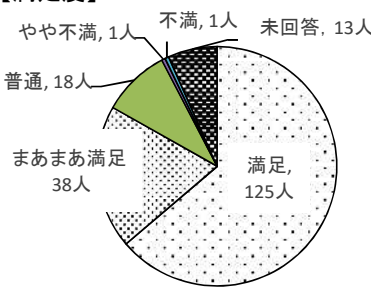
**【何で知ったか(複数回答)】**



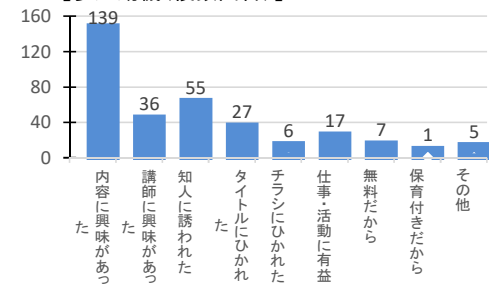
**【地域】**



**【満足度】**

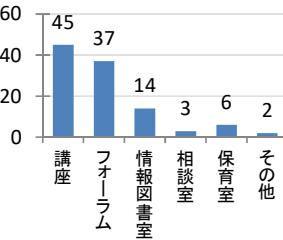
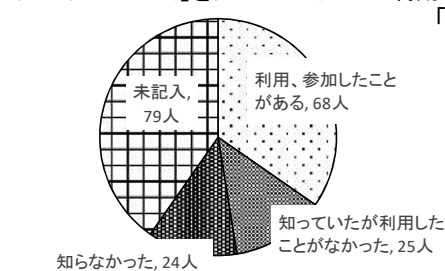


**【参加動機(複数回答)】**

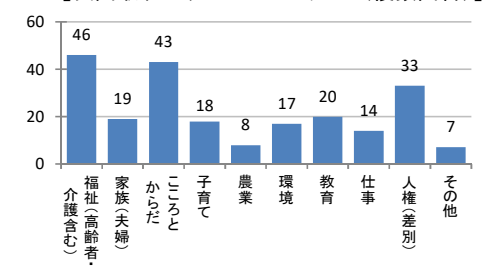


**【「アルザにいがた」を知っていたか？ 利用したことはあったか？】**

**「利用あり」の内訳(複数回答)**



**【次回取り上げてほしいジャンル(複数回答)】**



## ★ 実行委員の感想

フォーラムは3回目の挑戦になります。フォーラムを振り返ると、メンバーや自分自身の成長に繋がったと感じました。それは、ジェンダーを通して自分自身と向き合い、視点が広がったからだと思います。

ジェンダーはややもすると見過ごしてしまう、あるいは見えない見えない存在にしてしまいがちです。しかし、ジェンダーは自分自身と向き合うきっかけや気付きを与えてくれる存在だと思います。これからも、ジェンダーについて学び、自身の成長に、そして、社会に繋げていきたいと思っています。  
(多田 里美)

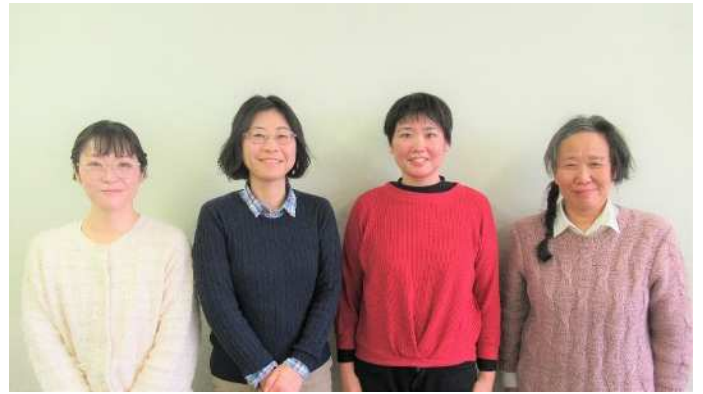
アルザフォーラム実行委員として男女共同参画について学ばせて頂き、一人ひとりの暮らしの大切さを実感しました。我が家の子ども達も小学校で男女共同参画を学んでいるので共通の話題もでき、家庭でも一緒に話すことが増え、親子でも学びが深まりました。今年度は男性、女性の両方の視点から先生方をお迎えし、同時に学ぶことで、それぞれの背景を知ることができました。

アルザフォーラム参加者様からも嬉しい感想をたくさん頂き、私も嬉しかったです。これからも、たくさんの方にアルザフォーラムを知って頂き、足を運んで頂きたいと思っています。  
(森田 妙子)

今まで公民館の講座など受講する側でしたが、今回初めて男女共同参画という大きなテーマでフォーラムを形にしていくなりの難しさを実感しました。しかし当日は多くの方々に来て頂きアンケート結果を見て実行委員をやって良かったと達成感を感じました。また私自身、新たな学びと気付きを得る事ができ良い経験が出来ました。ありがとうございました。  
(小池 園佳)

男性の長時間労働、男女の抜本的賃金差、家事や育児を引き受ける事による女性の利他的行動様式など、毎日暮らしていてとても重荷に感じているのに当然だと思われている現実、気づききっかけが、講演全体に散りばめられていて聞いて楽しかったです。講師が体験を絡めて具体的な例をあげることで、なるほどと頷けて、自画自賛を許していただければ、お呼びして良かったなと思いました。女性の問題を考える事は男性の幸せにもつながると触れて下さったのも全部の話がまとまって良かったなと思いました。分科会も共感の場として良い場になったと思っています。

(福田 敦子)



写真左から 森田委員/多田委員/小池委員/福田委員

### アルザフォーラム実行委員会規約

#### (名称)

第1条 本会の名称は、アルザフォーラム実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

#### (所在地)

第2条 実行委員会は、新潟市中央区東万代町9-1万代市民会館内に置く。

#### (目的)

第3条 実行委員会は、1985年から毎年開催されてきた「にいがた女性大会」を引き継ぎ、新潟市男女共同参画推進条例に基づき、女性も男性も個性と能力を十分発揮できる社会について、広く市民に啓発し、問題の解決を進める「アルザフォーラム」の企画・運営をすることを目的とする。

#### (事業)

第4条 前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) アルザフォーラムの企画に関する事
- (2) アルザフォーラムの運営に関する事
- (3) その他、前条の目的を達成するために必要なこと

#### (構成)

第5条 実行委員会は、公募や団体・グループ等から推薦される個人及び新潟市で構成する。

#### (任期)

第6条 委員の任期は、当該年度の第1回の実行委員会の日から第3条の目的が達成する日までとする。

#### (役員・役員の選任)

第7条 実行委員会を運営するために、委員の互選により代表1名、副代表1名を置く。

2 代表は、実行委員会を代表し会務を統括する。

3 副代表は、代表を補佐し、代表に事故あるときはその職務を代行する。なお、それぞれに事故あるときは、あらたに委員の互選により選出する。

#### (会計監査)

第8条 実行委員会の会計を監査するために、委員以外の会計監査2名を委任する。

#### (顧問)

第9条 顧問は、実行委員会の承認を得て代表が委嘱する。

2 顧問は、実行委員会の会議に出席し、意見を述べることができる。

#### (会議)

第10条 実行委員会は、過半数を以て成立する。なお、緊急の場合はこの限りでない。

#### (事務局)

第11条 実行委員会の事務局は、新潟市市民生活部男女共同参画課に置く。

#### (委任)

第12条 この規約に定めるもののほか必要な事項は、実行委員会において協議して定める。

#### (附則)

この規約は、2005年4月1日から施行する。

この規約は、2006年4月1日から施行する。

この規約は、2007年4月1日から施行する。

この規約は、2008年4月1日から施行する。

この規約は、2009年4月1日から施行する。



運営協力	
【保 育】 保育グループ秋桜 新潟市登録保育者 【手話通訳】 青木 由美子さん 小熊 聖子さん 【要約筆記】 近 美帆子さん 吉村 裕子さん 秋山 明美さん 長谷川 哲也さん 【音響・照明】 新潟照明技研株式会社	
ワークショップ	
放送大学心理臨床研修会・新潟 劇団あかつき カトリア会 特定非営利活動法人 新潟キャリアコンサルタント協会 NPO 法人 新潟県カウンセリング協会 NPO 法人 女のスペース・にいがた にいがた女性会議 介護・自立部会 にいがた女性会議 男女平等教育部会 新潟市消費者協会	NPO 法人 健康生きがいづくり新潟 新潟県カーリンコン協会 NPO 法人 ウィメンズサポートセンターにいがた イキイキ健康ふれ愛クラブ元気塾 わいわい夢工房 NPO 法人 日本ファシリテーション協会新潟サロン ポレポレの会 NPO 法人 新潟 NPO 協会 にいがた女性会議 子どもの人権・子育て支援部会
協賛事業	
ファザリング・ジャパン にいがた	劇団 blue ジーンズ
広告協賛	
有限会社 木場商店 にいがた女性会議 保険システム 株式会社	
後援	
NHK 新潟放送局 BSN 新潟放送 NST 新潟総合テレビ	TeNY テレビ新潟 UX 新潟テレビ 21 新潟日報社

協力して下さった皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

#### 実行委員

多田 里美 森田 妙子 小池 園佳 福田 敦子

2024年3月発行

編集・発行 アルザフォーラム 2023 実行委員会  
 事務局 新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」内  
 〒950-0082 新潟市中央区東万代町 9-1  
 TEL 025-246-7713 FAX 025-246-8080  
 E-mail alza@city.niigata.lg.jp  
 URL <https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/danjo/alza>